

活動紹介

NPO 法人千葉県森林インストラクター会

| | | | |
|------|---------------------------------|---------|-----|
| 講座名 | ステップアップ講座「通勤路で出会った野鳥達」 | | |
| 開催日時 | 2024年 4月 25日(木) 19時15分 ~ 20時50分 | | |
| 開催場所 | オンライン (Zoom) | FIC 参加者 | 17名 |

講師は瀬山陽一さん。2023年FIC入会のメンバーの一番手として、今回のステップアップ講座で発表して頂いた。入会直後の「緑を楽しむ講座 水元公園」の下見に参加して、レンズ越しの野鳥の美しさに感動されたのが、野鳥観察を始めるきっかけになったとのこと。

講師は、船橋の自宅から市川の会社までの11kmを自転車で通勤。1年前からその通勤路で野鳥観察を始め、その観察の成果を今回発表された。当初、ハシボトガラスとハシボソガラスの違いやキジバトとドバトの違いも知らないところからスタートしたが、この1年で34種の野鳥を通勤路で観察してきた。千葉県野鳥の会作成の千葉県鳥類リストには449種の野鳥が記載されているとのこと、その内の約8%の野鳥を通勤路で観察できたとのこと。



今回の発表では、通勤経路順に(1)住宅街、(2)国道沿い、(3)船橋漁港(海老川)、(4)西浦下水処理場、(5)港湾(真間川)で観察された野鳥を発表された。

(1)住宅街、小さな空き地

ヒヨドリ、ムクドリは多かったが、シジュウカラやメジロが意外に多かった。また、スズメに似た頬に黒斑がないニューイナスズメ(夏鳥)がいるそうで、そちらも見たいとのことだった。

(2)国道沿い

【カワラヒワ】肌色の嘴と翼の黄色斑が特徴。河原に生息するアワやヒエを食べることが和名の由来。太めのくちばしはタネを食べるため(ひなにも与える)。車が多く走るすぐそばにも、カワラヒワのような野鳥がいることに驚かれていた。



【ツグミ】10月ごろ、シベリアから大群で渡ってくる冬鳥の代表。囀らずに口をつぐんでいることが和名の由来。5月頃まで残る個体も多く、春先の暖かい日にはぐせる(若鳥がさえずりを学習する過程で鳴く、不完全なさえずり)。

(3)船橋漁港(海老川)

ハシビロガモやヒドリガモが多かった。ハクセキレイもよく見かけた。

【ヨリカモメ】冬鳥。最も身近なカモメ類。魚類のほか、昆虫類も捕食する。日本を去る4月中旬頃には、頭が黒い頭巾をかぶったようになる。古歌に登場する都鳥(みやこどり)はこの鳥。

(4)西浦下水処理場

西浦下水処理場付近でコガモが見られた。このコガモが処理場の放流水を盛んについばんでいる様子が見られた。おそらく、①放流される処理水が川よりも暖かいので、冬場でも藻が育ちやすい。②放流水は有機物を多く含むので藻類、プランクトンが増殖しやすい。③放流水の勢いで藻類、プランクトンが舞い上がり、捕食しやすくなったエサが多くあると考えられるとのこと。

(5)港湾(真間川)

【イソヒヨドリ】ヒタキ科。青と赤のツートンカラーが美しい。磯場に生息するヒヨドリに似た鳥とされたのが和名の由来。オスは「オオルリのような美声」。地上を歩きながら昆虫類、トカゲ、ムカデなど主に海岸付近にいる生き物を捕食する。岩礁から都市部、内陸部へ分布を広げている(ユウカリが丘や京都の寺にも)。講師の一番のお気に入りの鳥。

最後に講師は①意識が変われば、見え方が変わる。②聴く力を身に付ければ、見えないものが見えてくる。③住みづらい環境になっても、野鳥はたくましく生きている。でも野鳥にとっての環境は厳しくなる一方。④資料作りの大変さを実感。でも、とても勉強になった。と語られた。

参加者からは、単独で一種一種同定をしていることに感銘を受けました。率直な感想で語られていて、とても好感が持てました。通勤の経路だけでも、さまざまな環境に暮らす鳥の姿を見つけられる、という視点が良かったです。との感想が寄せられました。

FIC 講師 瀬山 陽一